

卸売業新春トップインタビュー

日本酒類販売

倉本 隆社長



問題では、当社
社は近距離物

第1次中期経営計画(2022~24年度/第74~76期)が折り返し地点を過ぎた。コロナ禍での出発が多難を極めているが、「お酒と食」で「つながり」を「価値」に変える会社を目指すため、「新」へのチャレンジに邁進している。共同配送の取り組み、初の直営店「TASAU+」、卸ならではの新商品開発など挑戦を加速させ、最終年度に向かう。

(聞き手 松丸浩一 まとめ 小倉泉弥)

第1次中期経営計画の進捗は

現時点で数値目標は達成できている。しかし、原材料費の高騰や急激な円安などによる物価高を受け、価格改定作業に忙殺されたのも事実だ。類を見ない商品群のマスターの整理や取引先との交渉に追われたのは否めない。

第1次中計では第74期~76期までの3年間を経営の基盤づくりの期間と位置付けており、売上高、総利益とも目標を達成して推移している。値上げの効果に加え、配送台数の見直しによる物流コスト抑制ができたことが大きい。

第1次中計最終年に「新」への挑戦加速

流が多いものの、ドライバー不足や賃金高騰など人件費への対応を進めているところだ。共同配送の取り組みも順調で、業務用酒販店の物流委託を受けて配送することで、台数削減、CO₂削減を実現している。関東圏以外でも同業他社と

人手不足からチェーン居酒屋が満席にならない現状もある。最近では老舗料亭でもタッチパネルが導入されており、変革の必要性を感じている。二次会需要が少ないのも気がかりだ。また全体的な傾向として、業務用・家庭用ともに

協業を進めており、中部や近畿エリアも規模が大きいため、共同物流化ができないか検討している。

量より質が求められていると同時に、特にオフで節約志向を強く感じる。焼酎甲類やRTD、新ジャンルなどはPBの比率が高まっており、二極化がより進んでいるのではないかと

業務用需要の回復が顕著だ。外飲みではインバウンド需要を取り込むことができていく。宅配も5ポイントほど寄与している。しかし、懸念も多い。回復はエリアでかなり格差があり、首都圏は好調だが他エリアはコロナ前の水準にはまだまだ戻っていない。

家庭用ではウイスキーが突出して伸びている。料飲店でハイボールに慣れ親しんでいるのだろう。コロナ禍で成人した人たちは飲み方を教わる機会も無かったから、焼酎などの酒類の楽しみ方も伝えていかなければならない。香

り系などの切り口もよい。興味を持ってもらうためのきっかけづくりが必要だ。

昨11月に新発売した本格焼酎「CRAFITAS K」シリーズだ。田苑酒造、高橋酒造、小正醸造と共同開発した。樽熟成から生まれる深い香りや味わいが楽しめる。発売後、追加オーダーが入っており、好調に推移している。得意先から焼酎の話題性のある提案が求められていることを実感した。「田苑」はオーク樽の鏡板に桜材を使用した麦焼酎。「白岳」はブランド樽で熟成した米焼酎。「小鶴」は樽由来のスムージーな香りが特長の七年貯蔵の

22年10月にオープンした「TASAU+」の動向

東京ミッドタウン八重洲という土地柄もあり、酒類に親しんでいない方も数多く足を運んで頂けている。特に女性客が多い。若くアイデアのある店長や副店長が様々なイベントを企画して好評だ。昨11月にも「佐賀を味わう」をコンセプトに佐賀酒(さがさけ)をはじめ有田焼など伝統工芸品

や県産食材を体験できるフェアを限定開催した。イベントに加え、社員の勉強会も行っており、モチベーションアップのよい機会にもなっている。

日本各地の銘酒を紹介する倶楽部「蔵」では12歳元の取り組みを伝えている。「季節の酒」など広がりを見せている企画もある。協力的な蔵元と提案を強化していきたい。

私はあまり口を出さず、店長たちの自主性に任せている。先日も料理を監修しているシェフがメニューの見直しを行ったと聞いており、日常的により良いものを提供する努力をしていることが伝わってきている。

台湾産RTD「カバラン パーカクテル」にも注力している。昨6月には新商品「DRY シングルモルトハイボール」を日本市場限定

で上市した。当初から甘くないハイボールを求めている声があったことから、金車グループ社と当社で共同開発したものだ。「カバランクラシック シングルモルト」を50ml使用した炭酸のみで割ったアイテムであり、味わいの評価が高い。順調に推移している。

今後の方針について
来る76期は第1次中計の最終年度に当たる。「Challenge to Change」の基盤を作り上げていきたい。「新」へのチャレンジとして、新しい業態、新しい取引先、新しい商品開発などを加速させていく。

飲酒ガイドラインについては
適正飲酒は当然だが、自己責任で楽しむものであり、リスクを過度に表現されることと酒自体が良くないものとして伝わってしまう。酒には歴史や文化がある。仏事や催しにも使われるなど、伝統と生活に密着したものの。慎重に検討を重ねてほしい。

特に注力している取り組み商品は